

# 平成26年9月期決算の概要

数字は原則として単体ベース、単位未満切捨て



## 1. 決算概要

p. 2～

- (1) 平成26年9月期決算のポイント . . . p. 2
- (2) 損益状況 . . . p. 3
- (3) 預金（NCDを含む）・預かり資産 . . . p. 4
- (4) 預かり資産 . . . p. 5
- (5) 貸出 . . . p. 6
- (6) 有価証券 . . . p. 7
- (7) 利鞘 . . . p. 8
- (8) 与信関連費用 . . . p. 9
- (9) 収益性 . . . p. 10
- (10) 自己資本比率 . . . p. 11
- (11) 金融再生法開示債権 . . . p. 12
- (12) 中期経営計画の進捗状況と今期の決算予想 . . . p. 13

## 2. 上期のトピックス

p. 14

上期のトピックス

. . . p. 14

損益状況

- 経常収益 76億円 (前年同期比 794百万円増収)
- 業務純益 11億円 (前年同期比 44百万円増益)
- 経常利益 22億円 (前年同期比 587百万円増益)
- 中間純利益 18億円 (前年同期比 648百万円増益)

財務状況

- 自己資本比率 11.34% (バーゼル3国内基準:単体)
- 金融再生法開示債権比率 2.75% (3月末比 0.1%改善)

## (2) 損益状況

(単位:億円)

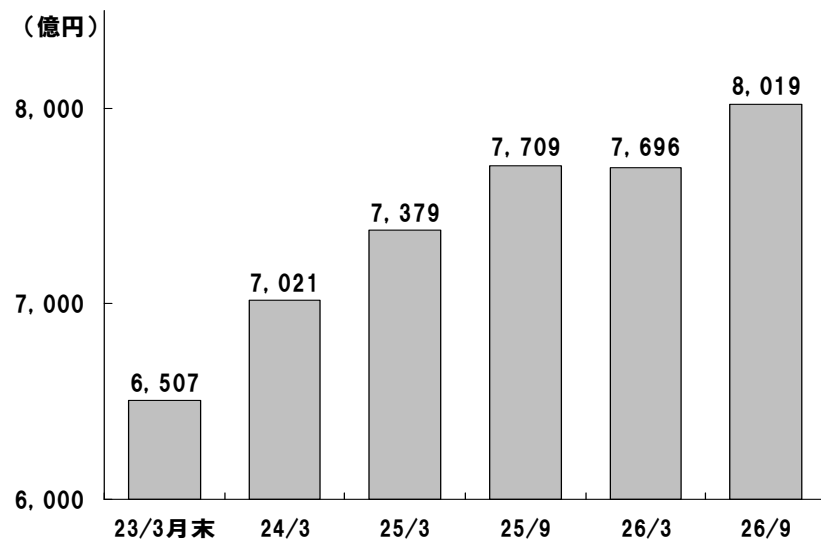
	26/9月期	25/9月期	前期比
経常収益(①+⑦)	76	68	7
業務収益①	63	60	2
貸出金利息	38	40	▲1
有価証券利息配当金	12	8	4
受入手数料	9	9	▲0
債券売却益②	2	1	0
業務費用③	52	50	2
預金利息	2	2	▲0
支払手数料	5	5	0
一般貸倒引当金繰入④	—	—	—
債券売却損⑤	0	0	0
営業経費	43	40	2
人件費	20	19	1
物件費	19	18	0
業務純益⑥(①-③)	11	10	0
コア業務純益[⑥-(②-⑤)+④]	9	8	0
臨時収益⑦	13	8	4
償却債権取立益	4	3	1
株式等売却益	5	0	4
臨時費用⑧	1	2	▲0
貸出金償却・売却損等	0	1	▲0
臨時損益⑨(⑦-⑧)	11	5	5
経常利益⑩(⑥+⑨)	22	16	5
特別損益⑪	—	▲1	▲1
税金等⑫	4	3	0
中間純利益(⑩-⑪-⑫)	18	11	6

- 経常収益は76億円と、前年同期比7億円の増収。
  - 有価証券運用を積極化させたことを主因に業務収益、臨時収益ともに増収。
  - 業務収益は、貸出金利回りの低下により貸出金利息が減少したものの有価証券利息配当金の増加により増収。
  - 臨時収益は、株式等売却益の増加を主因に増収。
- 業務純益は11億円と、同44百万円の増益。
  - 業務費用が人件費や物件費を中心に増加したが、業務収益の増加がそれを若干上回った。
- 臨時損益は11億円と、同5億円の増益。
  - 有価証券運用の積極化に伴う株式等売却益や償却債権取立益の増加が主因。
- この結果、経常利益は22億円と、同5億円の増益。中間純利益は18億円と、同6億円の増益。

### (3) 預金(NCDを含む)・預かり資産

- 預金(NCDを含む)＋預かり資産の残高は 8,019億円。3月末比 323億円(+4.1%)増加し 8,000億円を突破、過去最高を更新。
- 預金(NCDを含む)残高は 7,087億円と 7,000億円台を回復(平成11年3月期以来)。企業の業況改善や賠償金等の流入継続等から3月末比 298億円増加(+4.4%)。
- 26年7月に公表した女性を応援するプロジェクト「わたし - Lachic(らしく)」第1弾の中で、100万円を貯めることを応援する定期積金「夢たっぷり」の申込件数が9月末で500件を突破。

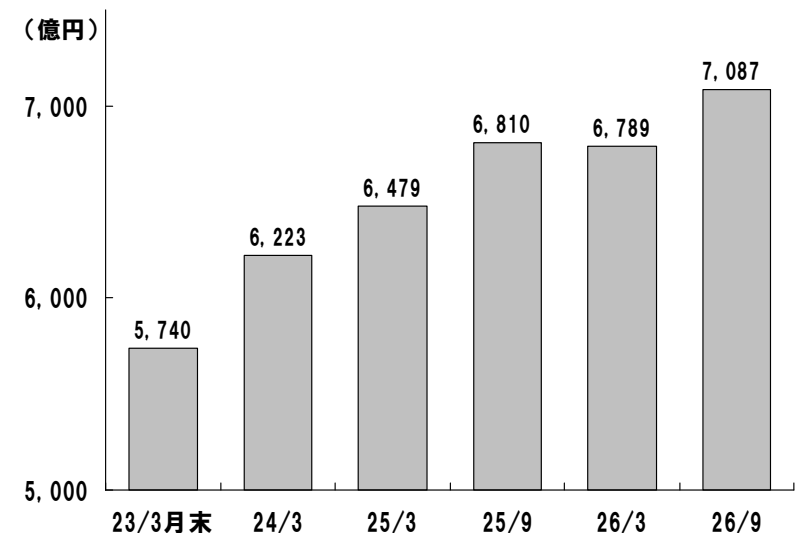
#### ○ 預金＋預かり資産残高推移



(億円)

	23/3月末	24/3	25/3	25/9	26/3	26/9
預 金	5,740	6,223	6,479	6,810	6,789	7,087
預り資産	766	798	899	899	907	931
合 計	6,507	7,021	7,379	7,709	7,696	8,019

#### ○ 預金残高推移



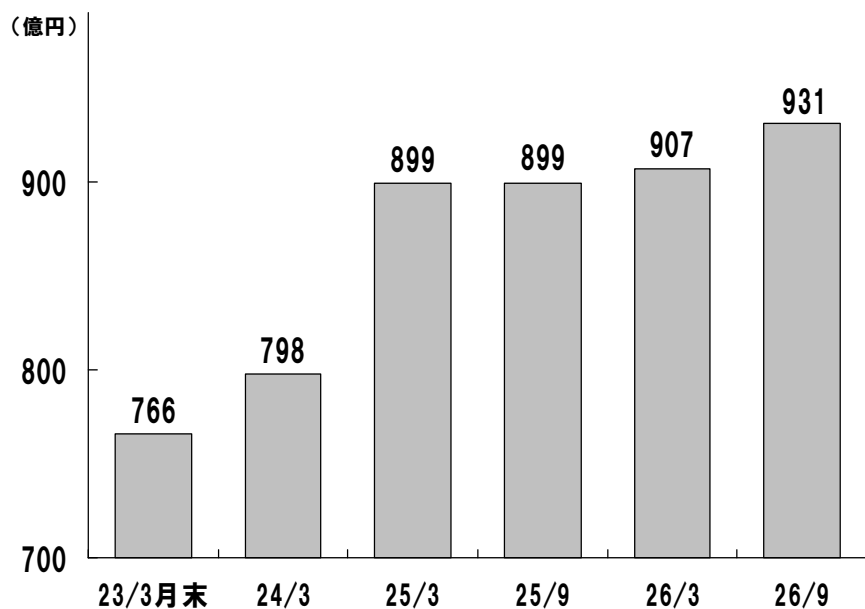
(億円)

	23/3月末	24/3	25/3	25/9	26/3	26/9
個 人	4,573	4,779	4,923	5,005	5,080	5,137
一般法人	905	1,104	1,126	1,292	1,259	1,384
地公体他	262	338	428	511	448	566
合 計	5,740	6,223	6,479	6,810	6,789	7,087

## (4) 預かり資産

- 預かり資産の残高は、投資信託の販売増加が寄与し、3月末比 24億円増の931億円。
- 預かり資産販売額は、投資信託を中心に128億円と、25年度下期比 28億円増加。
- 預かり資産関連手数料は、残高増加と販売増加の結果、25年度下期を37百万円上回る406百万円。
- お客様に質の高い投資情報を提供するため、支店単位の「資産運用セミナー」を上期中全店で延べ109回開催。
- シニアのお客様に安心して窓販商品をお買い求めいただくための施策(家族同席サービス、ゆっくり検討プラン等)も順調に浸透。

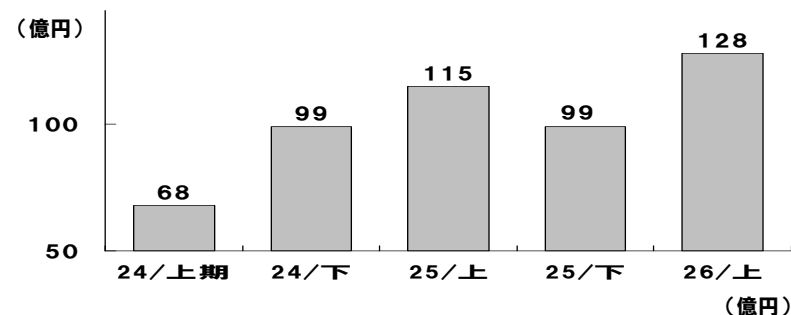
### ○ 預かり資産残高推移



(億円)

	23/3月末	24/3	25/3	25/9	26/3	26/9
投 信	411	414	481	456	466	496
保 険	292	330	366	389	389	385
公共債	62	53	51	53	51	49
合 計	766	798	899	899	907	931

### ○ 預かり資産販売額推移



(億円)

	24/上期	24/下期	25/上期	25/下期	26/上期
投 信	36	69	72	74	98
保 険	27	25	35	19	24
公共債	5	4	7	5	6
合 計	68	99	115	99	128

### ○ 預かり資産関連手数料

(百万円)

	24/上期	24/下期	25/上期	25/下期	26/上期
手数料	302	404	406	368	406

### ○ シニア向け施策 65歳以上のお客様の利用率

	25/上期	25/下期	26/上期
家族同席サービス	4.6%	9.2%	9.9%
ゆっくり検討プラン	0.0%	6.8%	11.0%

## (5) 貸出

○ 貸出残高は 4,681億円、3月末比 ▲4億円の減少。

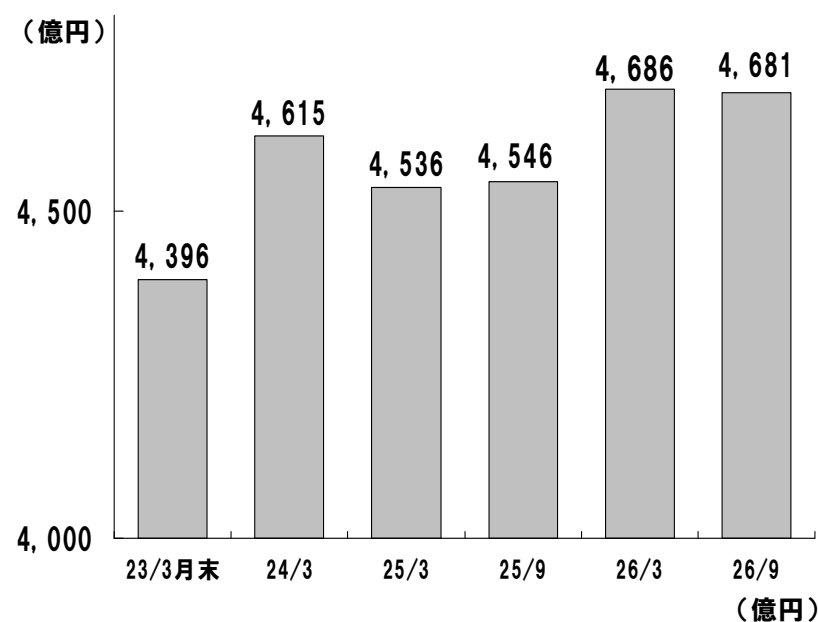
— 事業性貸出は、業況改善や賠償金流入等による資金繰り改善、資金需要伸び悩みから3月末比 ▲73億円の減少。

— 一方で消費性貸出残高は、お客様のニーズに対応した商品内容の改訂(注1)や販売チャネルの多様化(注2)により、3月末比11億円増加。

(注1)「マイカーローン e - 車助」、「教育ローン e - 学問の助」の商品内容を改訂(26年7月)。対象年齢や融資期間、融資限度額等を拡大。

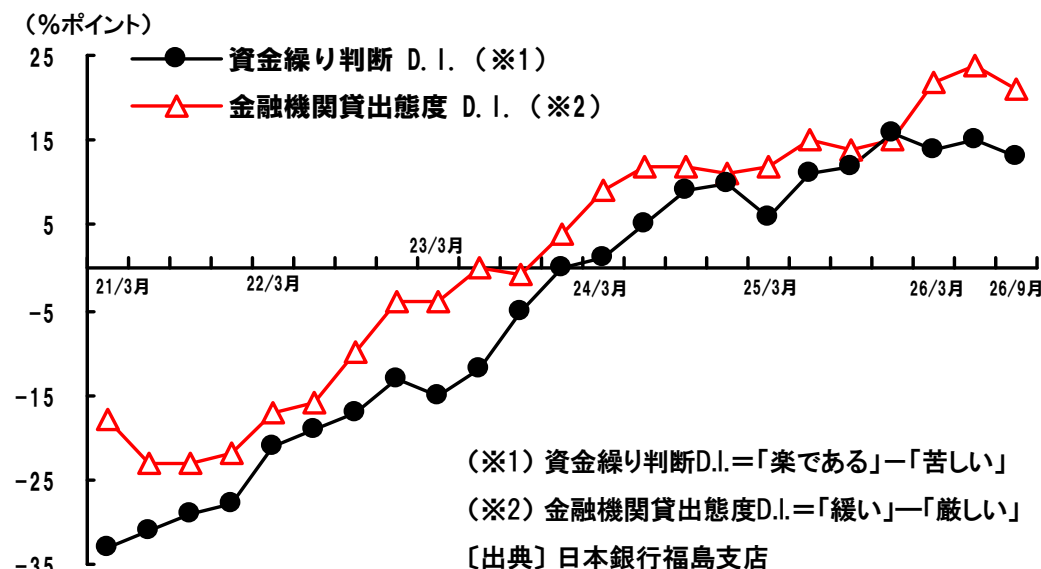
(注2) インターネット専用支店「いつでもどこでも支店」を開設(26年7月)。

### ○ 貸出残高推移



	23/3月末	24/3	25/3	25/9	26/3	26/9
事業性	2,454	2,556	2,375	2,328	2,355	2,282
消費性	1,474	1,494	1,520	1,525	1,543	1,555
地公体	366	471	525	561	690	768
その他	101	103	116	130	95	75
合計	4,396	4,615	4,536	4,546	4,686	4,681

### ○ 企業金融判断D.I. (全産業・福島県内)



(※1) 資金繰り判断D.I.=「楽である」-「苦しい」

(※2) 金融機関貸出態度D.I.=「緩い」-「厳しい」

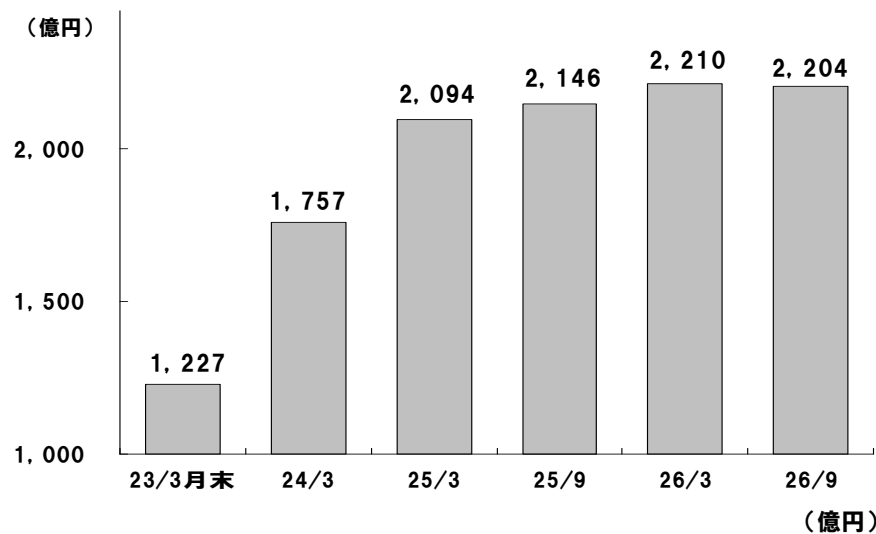
### ○ 消費性貸出残高

	24/3月末	25/3	25/9	26/3	26/9
住宅ローン	1,371	1,391	1,390	1,400	1,407
個人ローン	94	102	110	118	123
その他	28	25	25	25	24
合計	1,494	1,520	1,525	1,543	1,555

## (6) 有価証券

- 有価証券の残高は 2,204億円(3月末比 ▲5億円)。
- 利回りの低い債券の運用を圧縮する一方で、投信信託や株式での運用を積極化。その結果、有価証券利回りは 1.14%へ上昇(25年度比 +0.35%)。
- 債券のデュレーション(残存期間)は、先行きの金利上昇に備えて 3.5年とやや短期化(3月末 3.9年)。
- 保有有価証券の評価益は 36億円と、3月末比若干増加。

### ○ 有価証券残高推移



	23/3月末	24/3	25/3	25/9	26/3	26/9
債券	1,116	1,647	1,972	2,025	2,092	1,995
株式	54	54	59	62	62	60
投信等	56	54	62	57	55	149
合計	1,227	1,757	2,094	2,146	2,210	2,204

### ○ 有価証券利回り

23/3月期	24/3	25/3	25/9	26/3	26/9
0.83%	0.77%	0.68%	0.78%	0.79%	1.14%

### ○ 保有有価証券の評価損益

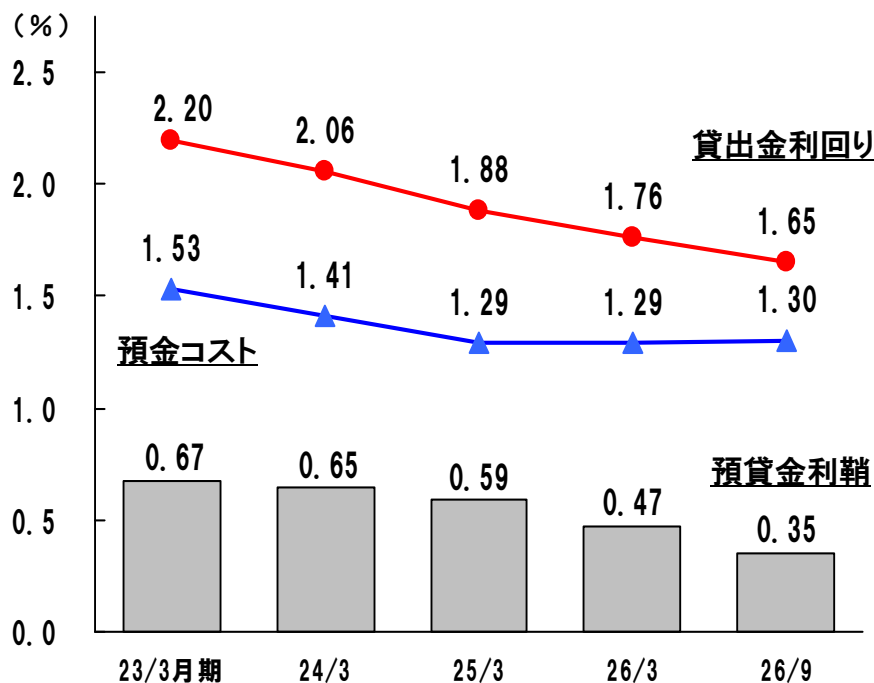
	23/3月末	24/3	25/3	25/9	26/3	26/9
債券	▲ 2	7	26	16	20	22
株式	▲ 5	▲ 2	6	10	10	10
投信等	▲ 10	▲ 7	2	1	3	4
合計	▲ 19	▲ 2	34	28	33	36



## (7) 利 鞘

- 預貸金利鞘は、貸出金利回りの低下を主因に低下傾向。ただし、足元での貸出約定平均金利(月末における約定金利を加重平均したもの)の下げ幅は徐々に縮小。
- 総資金利鞘は、資金運用利回りが有価証券利回りの改善により 25年度比横這いとなったものの、預金コスト上昇を主因に資金調達原価が上昇したため僅かに低下。

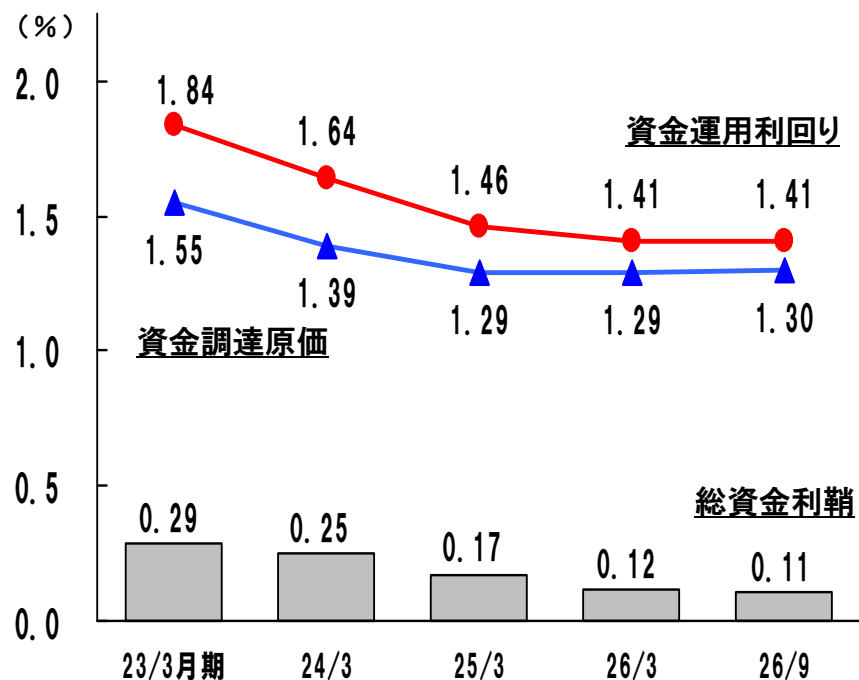
### ○ 預貸金利鞘



(参考) 貸出約定平均金利の下げ幅推移(前期比)

25/4~6月	25/7~9月	25/10~12月	26/1~3月	26/4~6月	26/7~9月
▲0.028%	▲0.046%	▲0.043%	▲0.039%	▲0.036%	▲0.022%

### ○ 総資金利鞘



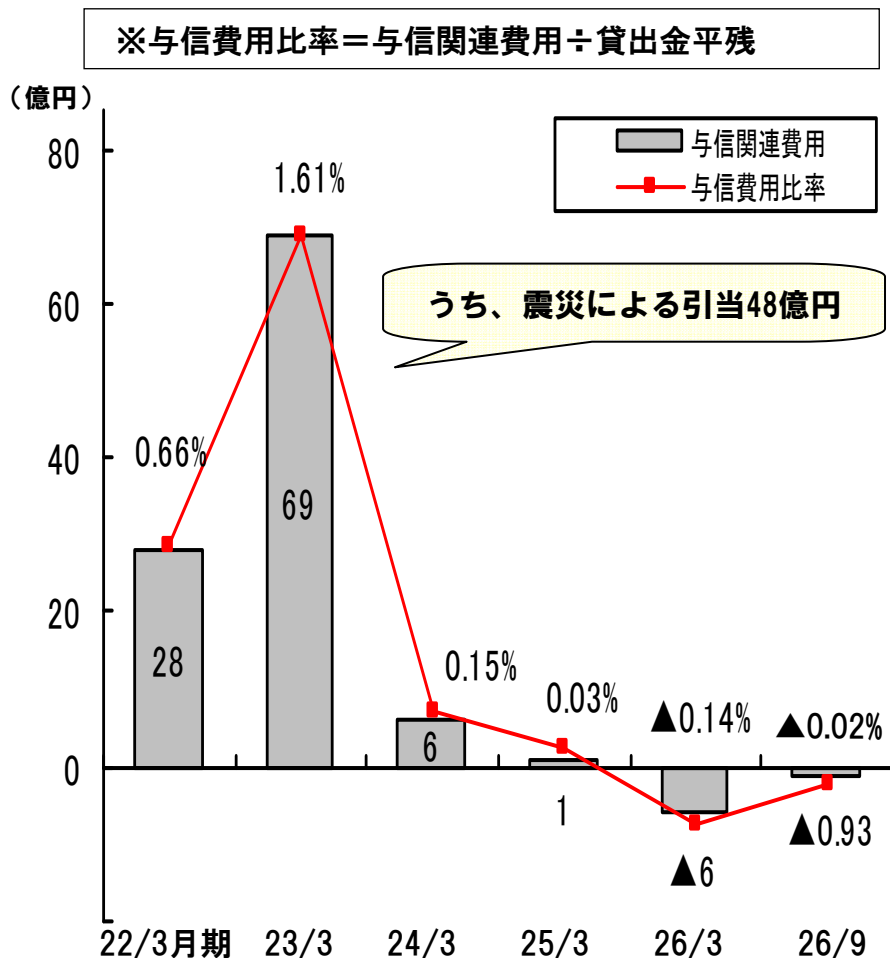
(参考) 預金利回り

23/3月期	24/3	25/3	26/3	26/9
0.19%	0.14%	0.11%	0.07%	0.06%

## (8) 与信関連費用

○ 与信関連費用は、倒産が少なかったために、貸出金償却が抑制されたほか貸倒引当金も戻入れとなったことから、▲93百万円（益超）となった。

### ○ 与信関連費用の推移



### ○ 与信関連費用の推移

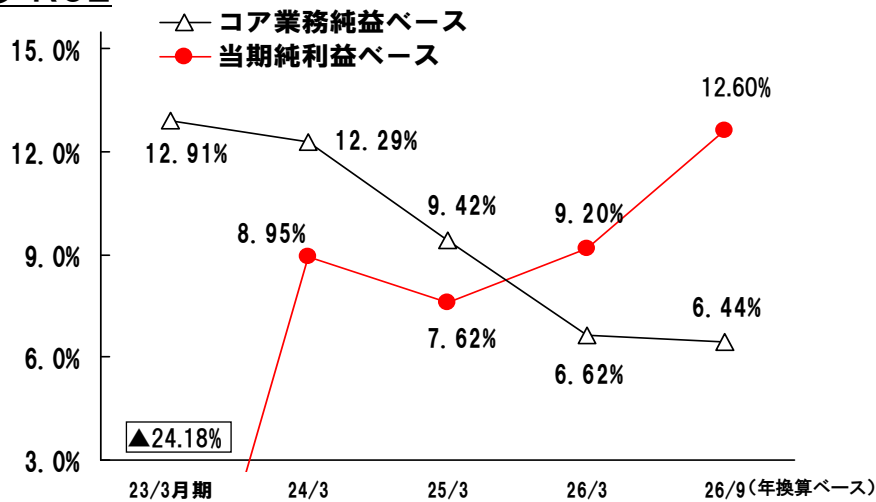
(百万円)

	24/3月期	25/3	26/3	26/9
貸倒引当金繰入①	-	-	-	-
貸出金償却②	1,094	978	322	81
債権売却損等③	306	13	17	16
貸倒引当金戻入④	735	818	1,009	192
震災による貸倒引当金繰入⑤	-	-	-	-
<b>与信関連費用 (①+②+③-④+⑤)</b>	<b>665</b>	<b>173</b>	<b>▲ 670</b>	<b>▲ 93</b>

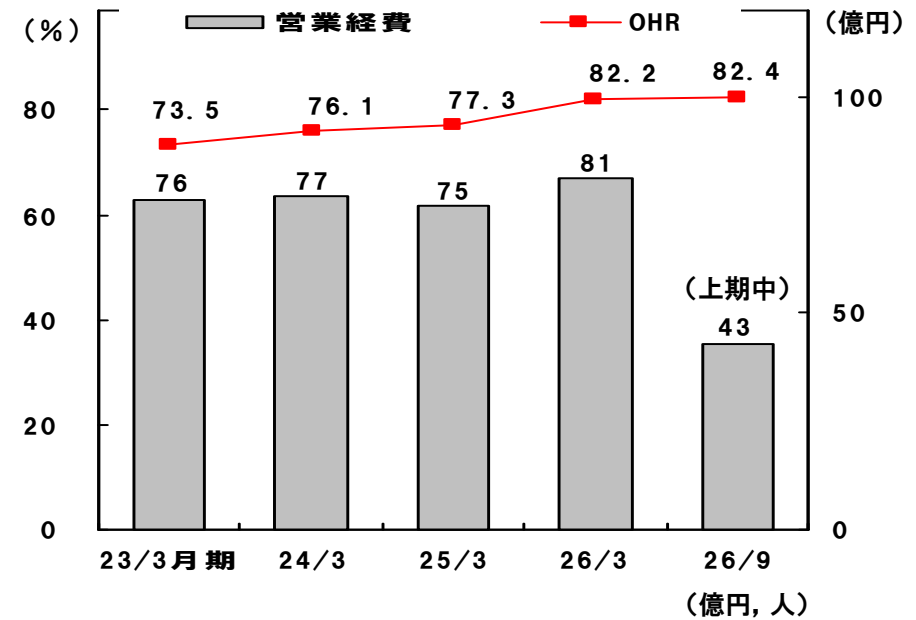
# (9) 収益性

- ROEおよびROAは、コア業務純益ベースは25年度比横這い圏内。当期純利益ベースでは増益幅が大きかったことから上昇。
- OHRはコア業務純益、営業経費ともに微増となったため横這い圏内。

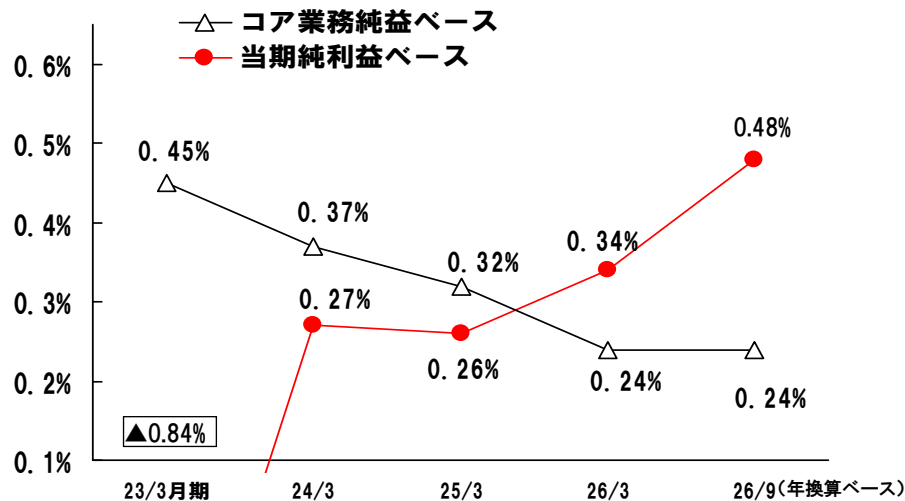
## ○ ROE



## ○ 経費とOHR



## ○ ROA



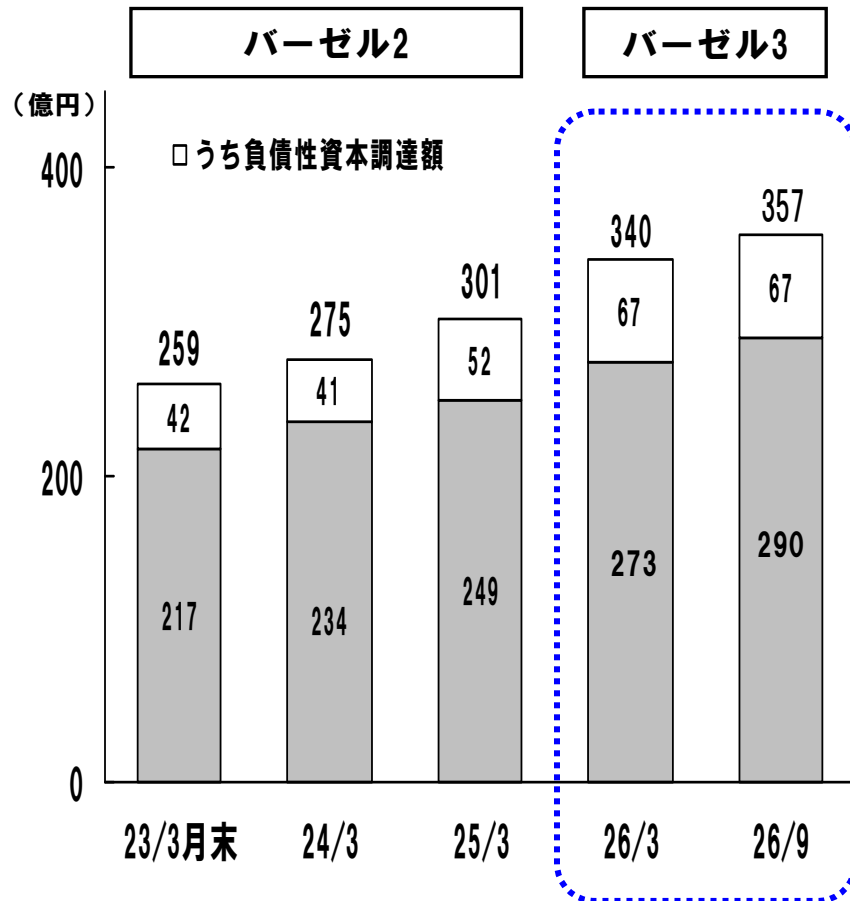
	23/3月期	24/3	25/3	26/3	26/9
人件費	34	35	37	39	20
(従業員数)	(803)	(768)	(767)	(765)	(784)
物件費	37	37	35	38	19
税金	4	4	3	4	2
合計	76	77	75	81	43

ROE=コア業務純益または当期純利益(年換算ベース)／純資産平残  
 ROA=コア業務純益または当期純利益(年換算ベース)／総資産平残  
 OHR=営業経費(臨時処理分除く)／コア業務純益+営業経費(臨時処理分除く)

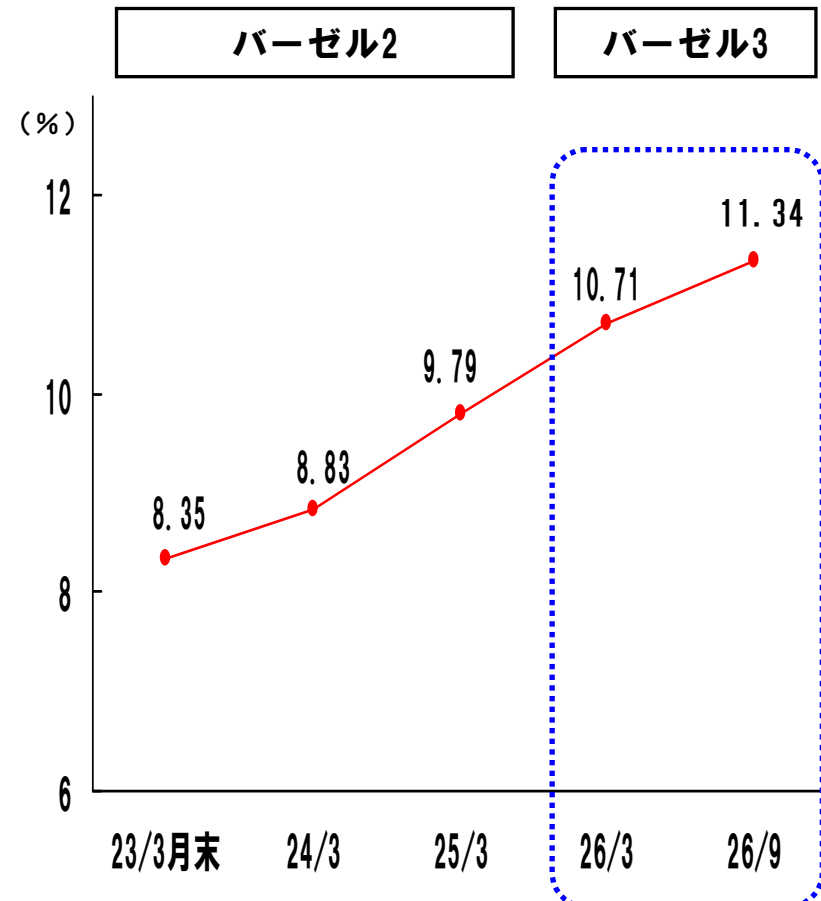
# (10) 自己資本比率

- 自己資本は357億円、自己資本比率は11.34%(バーゼル3国内基準)。
- 27年3月に劣後債37億円の償還があり、27年3月末の自己資本比率は10%程度の見込み。

○ 自己資本



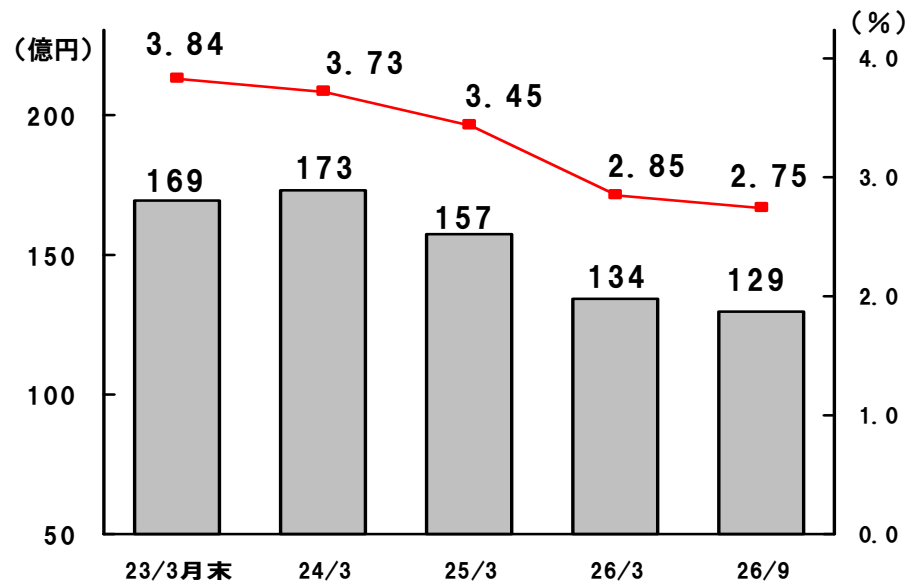
○ 自己資本比率



# (11) 金融再生法開示債権

- 金融再生法開示債権(※)は、倒産が低水準にあることや、企業の業況改善により借入金の返済が進んだことなどから3月末比5億円の減少。
- 金融再生法開示債権比率は 2.75%までに低下(ピークは平成14年9月期 19.6%)。

## ○ 金融再生法開示債権の動向



(億円)

	23/3月末	24/3	25/3	26/3	26/9
要管理債権	6	12	22	12	13
危険債権	69	82	76	74	77
破産更生等債権	93	78	59	47	39
合計	169	173	157	134	129

## ○ 金融再生法開示債権の増減要因

(億円)

	24/3月期	25/3	26/3	26/9
正常債権への 上方シフト	▲ 4	▲ 5	▲ 2	0
正常債権からの 下方シフト	56	44	18	15
償 却	▲ 18	▲ 14	▲ 2	▲ 2
売 却	▲ 7	0	0	▲ 4
返済・回収	▲ 24	▲ 40	▲ 36	▲ 14
合 計	3	▲ 15	▲ 22	▲ 5

※ 金融再生法に基づき金融機関が開示を義務付けられている「要管理債権」、「危険債権」、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」の合計。

## (12) 中期経営計画の進捗状況と今期の決算予想

- 平成27年3月期は、単体で当期純利益 25億円程度を予想。
- 配当金は1株あたり年1円50銭とする予定。

### ○ 中期経営計画(平成24～26年度)の進捗状況

	24年3月期実績	25年3月期実績	26年3月期実績	26年9月期実績	修正目標
業務純益	25億円	23億円	20億円	11億円	20億円
当期純利益	17億円	17億円	24億円	18億円	25億円
自己資本比率	8.83%	9.79%	10.71%	11.34%	10.00%
事業性融資先数	7,009先	6,882先	6,824先	6,751先	7,500先

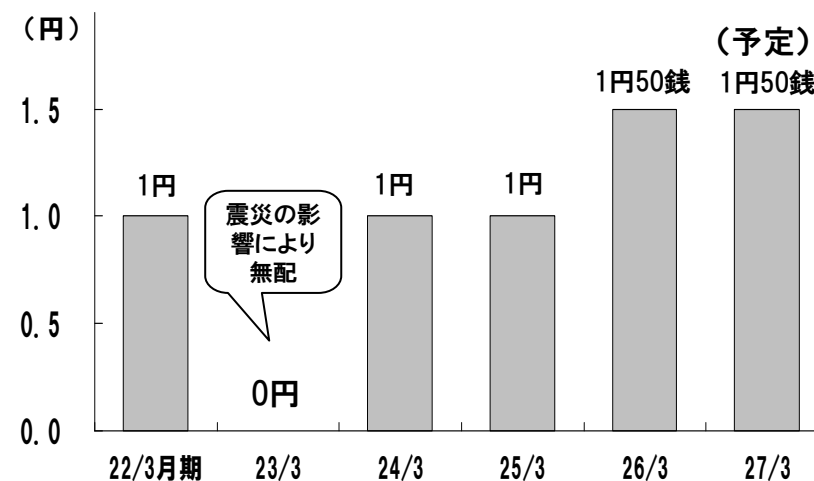
(26年3月期以降の自己資本比率はバーゼル3ベース)

### ○ 平成27年3月期予想

(億円)

		25/3月期実績	26/3月期実績	26/9月期実績	27/3月期予想
単体	経常収益	136	138	76	140
	経常利益	25	33	22	28
	当期純利益	17	24	18	25
連結	経常収益	156	158	86	158
	経常利益	26	36	23	30
	当期純利益	18	27	19	27

### ○ 1株あたりの配当金



### 1. 26年度上期中の当行主催のイベント(注)への参加者は約1,600名

(注)東北楽天ゴールデンイーグルス協賛試合および当行取引先だけを対象にしたイベントを除く

#### — 主なイベント

(シニア向け) 「生き生き健康教室(シニアのお客さまへの本気宣言!! 第3弾施策)」  
「どこでも勉強会(シニアのお客さまへの本気宣言!! 第3弾施策)」

(子ども向け) 「小さなコンピュータを使ったおもちゃ作りワークショップ」

(一般向け) 「みんなでわらじ祭りに参加しよう！」  
「打上げ花火と夜景を楽しむ会」  
「夏の会津・滝沢古道を大行進」  
「いわき 夏の小玉ダムハイキングと詩作体験」  
「福島のお話を聞く会」  
「尾瀬初体験ツアー」

### 2. 26年9月末のふくぎんエコ定期「みんなの尾瀬」の残高は945億円

— 26年5月に3月末の残高797億円の0.01%に相当する797万円を尾瀬保護財団に寄付。

— 27年3月末は残高1,000億円を目指す。

平成26年9月末

〈本社所在地〉	福島県福島市万世町2番5号
〈電話番号〉	024-525-2525(代表)
〈設立年月日〉	大正11年11月27日
〈資本金〉	181億円
〈株主数〉	16,868名
〈従業員数〉	542名
〈店舗数〉	57店舗(5出張所、3ローンプラザ、1ネット支店含む)
〈預金残高〉	7,087億円(NCDを含む)
〈預かり資産〉	931億円
〈貸出金残高〉	4,681億円
〈自己資本比率〉	11.34%(バーゼル3国内基準:単体)
〈連結子会社〉	(株)ふくぎんリース、(株)福島カードサービス

本資料には、将来の業績に係る記述が含まれております。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化などにより異なる可能性があることにご留意ください。

(お問い合わせ先) 株式会社福島銀行経営企画室 室長：森義宏 広報：松本崇宏 TEL：024(525)2525 FAX：024(536)5338